できることからはじめませんか 身近な地域の支え合い活動

福祉推進委員会活動セミナーを開催しました

誰にも看取られない状態で亡くなる孤立死、障がい者の地域生活支援、認知症高齢者の増加、悪質商法被害など、私たちが暮らす地域にはさまざまな福祉課題があります。こうした課題は、一部の機関だけで発見・解決することはとても困難です。日々の暮らしの中での、身近な地域の人々によるさりげない見守り・安否確認や交流を通し、いざというときに異変に気づくことができる地域づくりを行うことが大切です。

そんな日常の見守り活動を行う福祉推進委員会の設置促進と、運営方法や活動内容について理解を深めることを目的としたセミナーが２月２０日に開催され、厚別区内の町内会・福祉推進委員会・民生委員児童委員・福祉のまち推進センター関係者など計７５名の方が参加しました。

まず、札幌市社会福祉協議会の佐藤和人地域福祉係長により、福祉推進委員会の設置方法・関係機関との連携強化について、「福まち活動の手引き　福祉推進委員会の開設・活動編」をもとに講義が行われました。歩いて行ける範囲で見守り活動を行うこと、町内会・民生委員児童委員・福祉推進員が一体となって活動を行うことの大切さが改めて話されたほか、福祉推進委員会の開設や見守り活動の進め方についてのポイントについて説明がなされました。

▲福まち活動の手引き

続いて、実際に福祉推進委員会の開設に向けて動いている町内会の活動紹介として、厚別中央地区新さっぽろ町内会の樋田並久会長よりお話をいただきました。

平成２４年度に福祉推進委員会の開設を予定している新さっぽろ町内会では、民生委員・福祉推進員などのメンバーが一緒になっての健康クラブや、運動会・花火大会を通じての世代間交流、町内のゴミ拾いや花植え等の環境美化など、これまでもさまざまな取り組みを行っています。こうした町内会としてのこれまでの活動や地域の特色、福祉推進委員会開設に至る経緯などを説明していただき、身近な例としてのお話に参加者の皆さんは聞き入っている様子でした。

▲新さっぽろ町内会の樋田会長